

こぶねだより

神奈川県立大船高等学校

校長通信

令和2年度第12号

校長 富樫 由里子

令和2年7月22日



昨年度作成した年間行事では、本日が1学期の終業式で明日から夏休みの予定でした。生徒は1学期の通知票を気にしたり、部の合宿の準備をしたりと、何となく気持ちがそわそわする時期を迎えていたはずでしたが、年度当初から約2ヵ月の臨時休業となったため、期末テストは28日から、夏休みは8月3日からに変更されています。4日の登校日にも放送による集会や学年ごとの説明会等が行われますし、夏期講習や三者面談は8月11日から翌週まで設定されていますので、今年の夏休みは実際の日数以上に短く感じるかもしれません。熱中症や新型コロナウイルス等の感染の防止に十分配慮して過ごしてほしいと思います。

今年は8月13日から15日の3日間は、学校閉庁日となります。年末年始と同様、部活動や夏期講習は実施せず、学校は事務室も含めて閉鎖いたします。電話でのお問い合わせにも応じられませんのでどうぞご理解をお願いいたします。

さて、夏休み間近のこの時期になると、4年前の7月26日、県立の障害者支援施設「津久井やまゆり園」で起こった大変痛ましい事件のことがまた改めて思い出され、4年前のあの日、入所していた方々はどんなに恐ろしく苦しい時間を過ごしたことだろうと、胸苦しいような気持ちになります。このような事件が繰り返されないようにという願いを込めて作られたのが、「ともに生きる社会かながわ憲章」です。

普及啓発のチラシはこちらからご覧になれます。

<https://www.pref.kanagawa.jp/gikai/document/858005.pdf>

ポータルサイトにはこちらから入ることができます。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/m8u/cnt/f535463/index.html>

この憲章からは「当たり前な日常を過ごしていたあの頃には二度と戻ることはいかない、だから、起こってはならないことが起こったあの日のような出来事が繰り返されないような社会を、私たち自身でコツコツと作り続けていくのだ」という決意を感じます。やまゆり園の事件は「終わったこと」として片付けられるべきものではありません。あの事件で浮き彫りにされた障害者への偏見や差別的思考が、果たして私たちの内に巣くってははいないかを、コロナ禍の今こそ、自らに問いかけ自らを見つめなおすときではないでしょうか。「自粛」が叫ばれ外出を控えざるを得なかった期間に多くの人を感じた不自由さは、障害のある方が日常に感じていることかもしれません。「無関心」の殻を破り、「知る」「関わる」「考える」姿勢を何事に対しても持ち続けていきたい、そのように改めて思う1週間です。

◆新聞委員会、WEB 総文に参加

新聞委員会が参加することになってきた全国高等学校総合文化祭高知大会。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、現地での集まりは中止、WEB開催となります。各部門大会の様子は下のアドレスからご覧になることができます（7月31日から）。

<https://www.websoubun.com/>



2020 こうち総文の大会
マスコットキャラクター
「土佐なる子」

先日受講した「夏バテしない身体づくり」（講師は若林理砂さん）というオンライン講座で、「夏バテ防止には、梅雨時によく動いて汗をかくことが重要。そして、夏を気持ちよく過ごせたかが、冬の体調を左右する」と聞きました。梅雨明け前の今こそぜひ運動を！

★欠席等の電話連絡は各学年をお願いします。

1 学年 0467-47-2374 2 学年 0467-47-2375 3 学年 0467-47-2376

★本校ホームページもご覧ください。 <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/ofuna-h/>

